

《お知らせ》

江戸のサイエンス－武雄蘭学の軌跡－

大宰府の九州国立博物館で、上記の展示会が開催されます。日時は今月の16日(火)から7月7日(日)までです。

5月25日(土)の13時から16時30分まで、講演会が開催されます。この講演会参加の事前申し込みは不要です。場所は、1階のミュージアムホールです。(参加無料)

5月の学習会は、この講演会の参加を計画しています。市民の皆さまのご参加をお待ちしています。

九州国立博物館のホームページには、この展示会を以下のように紹介しています。

佐賀ノ異端児、日本ヲ動カス

18世紀後半、医学書「解体新書」の翻訳という偉業が達成されました。それ以来、医師を中心に蘭学(オランダ語文献＝「蘭書」による近代ヨーロッパの科学・学問)が普及し、文化8年(1811)に江戸幕府は蘭学を公認、さらに外国船の長崎来航事件の続発をうけ、九州諸藩の大名が蘭学を積極的に受容しました。名君として知られる佐賀藩主鍋島直正(なべしまなおまさ)(1814～71)もその一人ですが、実は直正に先駆けて蘭学を奨励した“異端児”が佐賀藩内にいたのです。

その名は鍋島茂義(なべしましげよし)(1800～62)。藩主直正の義兄で、武雄領の支配を委任されていた人物です。天保年間(1830～62)に佐賀本藩・

他藩に先駆けて蘭学を奨励し、みずから植物学を実践しただけでなく、武雄領内の近代化事業を推進しました。理科学工業を創業したほか、みずから西洋砲術家高島秋帆(たかしましゅうはん)に入門し、砲術研究と洋式訓練を実施。こうした武雄蘭学の発展は、佐賀本藩の近代化事業に影響を及ぼし、戊辰戦争(1868)では、茂義の遺産ともいべき武雄領の近代式軍隊が明治新政府に高く評価されました。

本展示会は、九州国立博物館と武雄市教育委員会の共同で開催するもので、武雄市図書館・歴史資料館が所蔵する武雄鍋島家伝来の蘭学資料の数々を一挙公開し、鍋島茂義が主導した武雄蘭学の軌跡をたどります。(以上です)

5月25日の講師紹介

司会：中野三敏氏(九州大学名誉教授・文化功労者)

講師：鳥井裕美子氏(大分大学教授)

鈴木一義氏(国立科学博物館科学技術史研究グループ長)

岡部幹彦氏(文化庁主任文化財調査官)

川副義敦氏(武雄市図書館・歴史資料館学芸員)

武雄市図書館・歴史資料館を学習する市民の会
(私たちの会は、市民自らが武雄の地域資源を発掘・学習・評価し、次代へ継承するための活動をしています。)

地球儀・天球儀 (武雄市重要文化財) オランダ1745・1750年

本品はオランダのファルク工房で製作されたもので、鍋島茂義が天保15年(1844)に長崎経由で購入したものです。

地球儀は、18世紀フランスの当時最新の世界地理認識を反映しています。

天球儀は、天体の運行モデルをビジュアル的にあらわす器具で、現代のプラネタリウムの前身ともいえます。星座の人物・動物を銅版画で絵画的に描いており、観賞用としても楽しめます。



(展示会資料より、写真は会の提供)

モルチール砲 (武雄市重要文化財) 江戸時代 19世紀

モルチール砲は、近代西洋式大砲の一種で、重い砲弾を放物線状に発射して城壁などを破壊するために使用されました。

本品は、天保6年(1835)、長崎の西洋砲術家高島秋帆がオランダ製のモルチール砲を手本に日本で初めて製造に成功し、門弟の鍋島茂義に譲渡したものです。

砲身に付された銀製の衣装は、武雄鍋島家の家紋(抱銀杏紋)です。



(展示会資料より、写真は会の提供)